

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'96

4

月号【1日発行】

連載開始

“思いをともに
テーマなきつどい” 成功のなぞ



いまを話す

かわさき市民アカデミー講師 斎藤 博さん
自然と向きあい調査する喜びを

Stage Up 4 月号もくじ/1995年

◆連載 思いをともに① ————— 3

「テーマなきつどい」成功のナゾ

■ほんねインタビュー いまを話す ————— 4

たいへん「緑の中身」

足と物差しで市民と調査25年

かわさき市民アカデミー講師 斎藤博さん

◎はりきっています グループ紹介 ————— 8

平和への願い短歌に託す

萬華鏡の会(多摩区)

情熱のハーモニー伝える

高津市民オーケストラ(高津区)

●学習・文化情報/会員募集 ————— 10

●ミニニュース/編集後記 ————— 14

◆ハッピージョイ 沖縄 コンサート

りんけんバンド ————— 好評発売中! ————— 16

◎表紙絵……………白山神社の春 ————— 清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

自分発見応援します——春からの3つの講座

資格取得支援講座 宅建取引主任者 答案練習講座

日時 6月29日～10月12日 毎週土曜18時～20時 全10回・20時間
 定員 50人
 受講料 15,000円 教材費 13,000円
 会場 新百合21ビル内 当事業団研修室(小田急線新百合ヶ丘駅下車)
 受付 4月22日(月)～24日(水)・10時～17時 ☎(952)5000で

はじめてふれる ワープロ講座

日時 5月14日(火)・15日(水)・16日(木) 10時～16時 全15時間
 定員 30人(市内在住・在勤・在学の人)
 受講料 9,000円 教材費 1,500円
 会場 川崎市教育文化会館(JR川崎駅下車)
 受付 4月19日(金)～26日(金) ☎(233)6250 事業団川崎分室で

はじめての陶芸

日時 '96年5月18日～'97年3月15日 隔週土曜14時～16時 全20回
 定員 25人(市内在住・在勤の成人で陶芸未経験の人)
 受講料 28,000円 材料費(粘土・釉薬) 7,000円(教具は含まれません)
 会場 川崎市青少年創作センター(小田急線生田駅下車)
 受付 4月16日(火)～20日(土) ☎(422)3932 事業団小杉分室で

※申し込み多数の場合は抽選、達しない場合は申し込み期間以降も受け付けます。

思いをとともに

楽しかったね 2・5

(1)

「会場に入り、場違いな所に来たかなという感じ。でも、テーブル懇談で上手に話を引き出してくれて」「こういう会に参加したのも、発言したのも初めて。楽しかった」。初の「Stage Up読者のつどい」参加者からの電話。「テーマのないダベリングがいいムード」とのはがきも。百五十人は、二月五日のつどいを期待して参加したのか。八割の出席者が「よかった」という、つどいの中身は。そして「高橋市長には居心地の悪いつどいでは」「はホント？その『ドラマ』に迫る（ご意見をお寄せ下さい）」。

テーマなきつどい 成功のナン

読者のつどい開催の記事が「Stage Up」新春号に掲載されると、熱心な読者から「つどいのテーマは何ですか」との問い合わせが連日、小誌編集室にあつた。小誌スタッフは、「『いまを話す』のゲストからお話しをいただいた後、七、十人ずつのテーブルに分かれ、それぞれの思いを述べ合います」と答えた。

「テーマは何ですかと聞いているんです」と、明

らかにいら立った声。「テーマはないのです」「はあ？」。電話の向こうが、あきれた声になる。

だが、この「テーマなきつどい」が、予想外の好評になるのだ。「つどいの良かった点」の第一位は「テーブル懇談」の四十八人。そして「懇談の時間をもっと多く」と注文した人が十二人もいた。これは、従来の「質疑応答型会議」からの脱皮を求める市民ニーズな

のだろうか。

昨年の十二月中旬にさかのぼる。初の「読者のつどい呼びかけ人会議」が生涯学習振興事業団の会議室で開かれた。つどい当日まで五十日余り。百人以上の読者の参加をめざす「つどい」の準備としては遅すぎた。「人集めがどんなに大変か、分かってないんだよ」との声も聞こえてきた。

しかし、その会議は笑顔のオンパレード。余裕なの

か？一般的には、代表者や司会者など、おもな担当は事前に根回しを済ませるのが「常識」なのだ。それもなかった。会議を和ませたのは紋切り型でない自己紹介。各人が、いま何をしどんな事を考えているかを話すと、瞬く間に、代表には「川崎・ゴミを考える市民連絡会」の飯田和子さんが、司会者にはピアノ教師の丸山博子さんが決まり、小委員会までできた。



テーブルには花と持ち寄ったコーヒーカップ、手づくりのケーキが…

三浦敦子さんは「全員が、一言でも話して帰れるつどいに」との飯田さんの発言に、私も大切なのはそれだと思つた」と振りかえる。そして「一言でも話せるつどい」へ向け、テーブル懇談が浮上する。

呼びかけ人同士の信頼を示すエピソードも数えきれない。「室伏陽子さんは、地域を強く愛している。ゆくり話してみたい人」と、菅原陽子さんは新しい親友を得た感じがいい、飯田さんは「気持ちが良い、つどいのコンセプトが一回で一致できたのが大きい」と述べる。

(つづく)

いまを話す

ゲスト

かわさき市民アカデミー講師

齋藤 博 さん

Vol. 43



——かわさき市民アカデミーの「川崎学」で、齋藤さんが講師の講座「川崎の自然観察」はすべてが野外授業だそうですね。

齋藤さん 僕の授業は解説ではありません。毎週、現場に行つて学生（会員）に調査をしてもらいます。「自然はこういうものだ」との先入観を持たないで、自然の見方のモノサシで、いろんなものを見る訓練をするんです。

——だから「齋藤さんの講座は楽しい」と評判がいい。どんなモノサシですか。

たいへん「緑の中身」
足と「物差し」で市民と調査25年

かわさき市民アカデミーの川崎学講座「川崎の自然観察」は、すべてが野外授業。中年の学生（会員）は、講師の齋藤博さんがつくったモノサシで自然度を測り「自然のありがたさ、良さがわかる」と知的好奇心を盛んにする。その卒業生が「道草ゼミ」をつくり活動している。和光高校教諭をしていた七〇年代、川崎北部に開発の波が押し寄せ、「多摩丘陵の自然をまもる市民の会」を結成。「足元の自然を大事に」の思いから、さまざまな自然環境保護に取り組みときには「変人」扱いも。「自然と向き合い、生き物と触れ合うと感動を生む」事実が行動力の源。数々の実績に基づき「行政とパートナーシップできる」と断言する。インタビューは伊藤眞弓さん。

齋藤さん 開発されている自然度はいろいろあります。例えば自然林の残存を知る手立てとして、シラカシに代表されるカシの類、その補助をなすヤブツバキ、ヒサカキなどの植生状況を調べて、自然林の潜在度をつかみます。参加した学生が「その日は家に帰つても気分がよく、次の講座が近付くとウキウキする」といっています。

——市民アカデミーの卒業生が「道草ゼミ」という自主講座をつくつた気持ちご理解出来ます。

齋藤さん アカデミーの学生が、自然のメリットを感じると同時に、自然が失われて起きた問題についても調べた結果、さらに学習しようとの気持ちになつたのでしよう。

——例えば……。

齋藤さん 昨年、ケヤキが大気汚染でどのくらい弱っているか診断したんです。川崎大師、川崎駅前通、新百合ヶ丘、町田の芹ヶ谷公園などを調べたら、やはり大師公園が一番悪く、川崎駅前周辺も相当弱っていた。新百合ヶ丘も意外と悪く、芹ヶ谷は道路に面したところが悪い。授業だけでは、収まりがつかなくなつたんですね。

——環境へ危機感を抱き、自主



失われる自然体感し自主ゼミ 子供たちへ生き物と触れ合う感動を

アカデミー
卒業生

的に行動しなければと……。

齋藤さん そうなんです。これまで、環境の上面だけ見ていた。それが学ぶことによって、異口同音に「歩いてみて周りが気になり出した」と言います。庭木から公園、散歩道、木や花に止まっている昆虫にも目が向くようになった。僕は野外授業中、鳥の鳴き声がすれば鳥のことを、石仏があればその歴史を話します。自然

はトータルなものですから。

——昔は自然、自然と言わないでも、自然が当たり前でした。

齋藤さん 当たり前前をセツトしなければ、駄目な現実が悲しい。

——自然って泥臭いですよね。

齋藤さん そう。だから「緑」

って言葉、嫌いです。外見は同じ緑の雑木林でも、調べると大違い。町田の能ヶ谷は、今も昔も外見は同じです。しかし、三十五年前の調査データと比べるとマツムシソウ、オミナエシなどがあつた。開発や野草ブームなどで、滅ぼされていく。緑という「見せかけの山」を残せばいいのではなく、中身が問題なんです。

——緑の自身を強く意識して活動しないと自然は守れないと。

齋藤さん 自然にあこがれ、地方へ旅行する人がいますが、大切なのは自分が生活している足元の自然を大事にする視点です。僕は自宅の柿生から新百合ヶ丘まで歩

くんです。歩けば、草花や鳥、山林などの美しさによって、心のやすらぎが得られます。お金をかけない健康法ですし(笑い)。

——自然との関わりは、どうやって培われたのですか。

齋藤さん 子供のころの遊びの中からです。学校の授業は、教科書通りでつまらなかった。だから遊びほうけたんです。それと、私を育ててくれた元関取のおじさんが



「サワガニ捕りに行ってもメスが卵を持っていたら、決して捕っては駄目だ」と自然を肌で教えてくれたことが大きい。生き物と触れ合う、そのことが感動を生むんです。教師になって、子供たちに本物と出会える体験をいっばいさせたいと思いました。

——そんな先生、いいなあ。

齋藤さん 和光高校から教諭の話があつた時、校長に「教科書通

齋藤 博 さん

さいとう・ひろし=1931年、千葉県生まれ。東京教育大学農学部卒。和光高校教諭(生物・環境問題)を38年間務め94年に退職。25年前、「多摩丘陵の自然をまもる市民の会」を発足させ、自然環境保護の活動に心血を注ぎ「多麻地域文化賞」受賞。市自然環境保全審議会委員、市公害監視会議委員を歴任。現在、環境庁国立公園指導員、かわさき市民アカデミー川崎学V~川崎の自然観察~の講師。「丘陵博物館上・下」(アンヴィエル)「町田の自然」(共著=町田市)などの著書あり。麻生区在住。

りの授業はやりたくない。自分でテキストをつくり、子供を外に連れ出したい」と談判したんです。

——すごい(目を丸くして)。

齋藤さん ちよつと粋がっちゃったのね(爆笑)。あきれたみたいだけどOKが出た。それで、生徒を近くの小川に連れて行き、ザリガニ釣りから始めたんです。二カ月ぐらい多摩川に通ったこともありません。鳥や植物、昆虫、プランクトンなど総合的に調べました。修学旅行の代わりに、下北半島へ研究旅行をしたこともあります。

——生徒の反応は。

行政監視委員 市民がオンブズマンの役割を なぜ悪化！川崎の環境



齋藤さん のめり込んでくれま
してね。悪ガキも生きいきして、
普通の授業だとずっこけるのに。
魚取りの網にするネットを八百屋
さんからもらってきたんです。そ
のパワーには驚きました（うれし
そうに）。しかし、そのうち、多摩
川が泳げなくなり、和光大学周辺

の川崎北部や多摩丘陵の開発が進
み、生き物の数が減ってきたんで
す。
——自然保護運動を始めたのは、
そのころですか。
齋藤さん 二十五年前のことで
す。教師仲間五人で「多摩丘陵の
自然をまもる市民の会」を発足さ

せました。自分たちで土や水、大
気の分析、生き物の記録から歴史
までの環境調査をしながら「自然
を生かした街づくり」を提案しま
した。

——そのころの川崎の自然は。

齋藤さん すでに西菅、黒川、
早野ぐらいいしか素晴らしい自然は
残っていませんでした。早野の市
営霊園計画に対し「五〇路に七つ
の池があるまとまった自然を、市
民の自然教室の場として残すほう
が意義深い」と提言したとき、変
人呼ばわりされました。環境問題
は総論賛成、各論反対ですから。

——当時は高度成長期で、公害
が深刻さを増した時でしたね。

齋藤さん 川崎の自然環境保全
のための「みどりの憲法」の直接
請求にも関わり、そのとき、北部
の自然を、南部の人に直に感じて
もらおうと、早野や黒川に案内し
たんです。あるお母さんと息子さ
んがバスを降りた途端、深呼吸を
して「岩手の実家に戻ったように
空気がおいしい。この空気をいつ
ばい吸って帰ったら、今夜はぜん
息の発作に苦しまないで寝られそ
う」と言っただけです。ジーンとき
ちゃって。「黒川分校跡を市民の

グリーンスクールに」と提案もし
ました。

——たくさんの運動に関わって
きたのですね。

齋藤さん 環境運動が難しいの
は「これでいい」ということがな
いことです。二十五年間、土・日
曜もなく、関わってきました。

——その中で地域は変わってき
ましたか。

齋藤さん 変わってきました。
でも、もっと早く輪が広がってい
れば「川崎最後の自然は黒川だけ」
といわれるほど、川崎の自然はな
くならなかったと思いますよ。

——川崎市は全国に先がけ、環
境アセスメント条例を作るなど、
進んでいるように思うのですが。
齋藤さん 確かに条例は早かつ
た。でも、それを有効に活用し、
将来の環境を見通し、市民生活に
プラスにする姿勢がなければ……。
斜面緑地保全の要項も効力を発し
ていませんね。

——市民意識のほうに問題は。

齋藤さん 市民代表が審議会入
りしたり、「市長が革新だから」と
安心したことは否めませんね。
市民一人ひとりがオンブズマン
(行政監察・監視委員)になるこ

緑被率47%の成果

麻生のグリーンタウン

行政との対等な協力関係築け

パートナーシップ

とが重要だったのに。また、僕たちの「多摩丘陵の自然をまもる市民の会」のように、長く活動している粘っこい会は少ないんです。

——最近の市民と行政の関係はいかがですか。



齋藤さん 麻生区王禅寺の「川崎市制六十周年記念総合公園」は、僕らの提案がかなり反映されています。市民サイドで「本当に遊べる公園をつくろう」と調査データやアイデアを出して、粘り強く話し合いました。水を循環させる多摩川のミニチュアや、民話・自然・歴史をモチーフにしたマンホールの蓋などがそうです。この蓋

は双六遊びができるように企画しました。税金を有効に使うには、多くの人の知恵と労力を結集しようとの発想で、市民と行政が協力できた初めてのケースと思います。

——素晴らしいことですね。

齋藤さん 本当はもつと夢のあるものをつくりたかった。山から山へケーブルをかける、キノコのトンネル形をした休憩所とかです。

——実現を阻んだのは？

齋藤さん 安全、安全なのです。ターザンごっこは危なくて駄目、物見やぐらは付近住民が反対。

——ふーっ（溜め息）。市民の中には、けがをされると「安全管理に手落ちがあった」と、行政の責任にする傾向があります。自己責任

保護者責任はどうなのかしら。ところで、市民が努力をすれば、行政とパートナーシップが組めるとお考えでしょうか。

齋藤さん 思います（即座に）。だから、こだわり続けているんです。

す。多摩ニュータウンの住宅予定地だったカタクリの群生地は、私たちが二十年かけて説得し、東京都が折れて、林ごとそっくり残りました。その後も調査に協力をして、話し合いを続けています。行政を信じ、努力したら群生地が残った。人間だもの、どこかに通じるものがあると思わないと。早野も池は残り、墓地の規模が縮小されたんです。信じないと何も進まない。よい環境をどう残せるか、お互いが知恵を出すことです。

——齋藤さんの粘り強い活動の原動力は何ですか。

齋藤さん 自然の素晴らしさです（きつぱりと）。自然抜きには人間は生きられない。それなのに人間は思い上がっている。だから、へりくだって自然とどう付き合おうかが問われているんです。

——都市と自然との共生は。

齋藤さん それが一番の矛盾で



伊藤真弓さん

伊藤 真弓 さん

いとう・まゆみ=米国 Grando View College卒。声優・北川智繪主宰「話芸写」の「語り」で上演音楽を担当。英語通訳・翻訳、ナレーターや難民支援のチャリティー語りも。川崎に住んで25年。自宅は中原区新丸子。

す。ベースになるのは「どういうまちにするか」です。麻生区白山の「グリーンタウン」開発のとき、開発当事者とかなり論争した結果、四七%の緑被率とムジナガ池を残せました。自然との調和をベースにしたまちを造れば、住み心地のよい暮らしができることを実証しました。

——今後、環境を守る活動が、ますます重要になりますね。

齋藤さん 環境への取り組みは、ごく普通の人々が、疑問を感じ知識を身に付け、身近な人と呼び掛け、発展するのだと思うのです。行政にも働き掛け、長い年月を費やし成果を得る息の長い活動です。専門家に任せればいい、は駄目です。

題字は高橋清・川崎市長

構成／野々川千恵子

文責／田中 閑

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ
学び
活動する
生かす



心ひかれる言葉で
愛や世界見つめる

平和への願いを短歌に託す

萬華鏡の会 (多摩区)

『空と海ひとつとなれるかなた
よりの霧を破りて初日出たり』
『思ひ出すこの一年の失敗を我
の愚かさ友の優しさ』

『しあはせにすると騙して五十
年それでもそばに居てくれし妻』
この短歌は『平和と愛』を二十
一文字に詠み、文芸誌にまとめる

「萬華鏡の会」―芳忠復子代表
(72)ら五十七人―多摩部会の新
年の席で上位に選ばれた三首。ど
の歌にも感謝と希望が満ちている。
暗く不安がつづいた昨年。それだ
けに「今年こそは」の思いが込め
られている。

同会は、月一回、中原と多摩で
合評会を開き、持ち寄った歌を作
者を伏せて記名投票。評価が高か
った作品から順に全員が感想を述
べあう。その後、作者が、歌にま
つわるエピソードを話す。会員は
うなずいたり、目を閉じたりして
情景に思いをはせる。ちよつぱり
はにかむ作者。なごやかな雰囲気
が広がる。

指導の芳忠代表が「『燦々さんざんと輝
く』は『燦と輝く』の方が流れが
良いでしょう」と具体的に助言を
すると「ほんと、歌がべつと引き
締まるわ」と驚く会員。

同会の発足は、世界で核実験が
繰り返されていた十五年前。若い
時から歌を続けてきた芳忠さんが
「言葉を磨き、表現することで世
界を見る目を養おう」と近所の三
四人で始めた。その後、芳忠さん
が講師を務めた多摩・中原両市民
館の講座終了者が加わった。

会員の平均年齢は六十代後半。

「生きてきた証し」として自らの
戦争体験を語り継ぐと、年三回
文芸誌「萬華鏡」を発行している。

昨年は戦後五十年。豊かさを追
求するあまり、「見えにくかった
愛(芳忠代表)の半世紀でもあつ
た。しかし、世の中が激しく揺れ
動く中で愛が見つめ直され、同会
は昨年を「愛の復権と戦争犠牲者
の鎮魂を願い、平和祈念の年」と
位置付けた。そして、芳忠代表の
三女、暁子さん(40)が平和への
思いを託した詩集を出版。どん底
の闇を抜け、二一世紀に向かつて
光を見い出すとの願いから、タイ
トルも「暁子」とした。

夫婦で新宿から通う志村晃さん
(71)は「歌で会話が豊かになり、
共通の宝物になりました」と笑う。
野川博之さん(27)は「風雪を
乗り越えた人々の人生を感します」
と感慨深い面持ち。

安田さち子さん(46)は「小さ
な事にも心ひかれるようになりま
した」と豊かになった感性を喜ぶ。
同代表宅は、多摩区寺尾台一の
五の三。☎(9666)6971。

文 / 小誌・熊野史子
カメラ / 小誌・山本綾子

ワイド版

はりきってます グループ紹介

情熱のハーモニー・アンサンブル

高津市民オーケストラ

土曜日の午後、川崎市民プラザから迫力ある演奏が聞こえてくる。「高津市民オーケストラ」――南郷子事務局長(45)ら六十五人は、年一回の定期演奏会や地域でのボランティア演奏会に向け練習に励む。団員は「技術はプロにかなわなくても音楽への情熱は同じ」と合奏の喜びに浸る。

この日の曲は、シューベルトの「ロザムンデ序曲」、チャイコフスキーの「白鳥の湖」、ベートーヴェンの「交響曲第一番」。

団員が末永隆一・正指揮者＝円内Ⅱの腕の動きを見つめ息を合わせる。弦を押さえる左手を微妙に揺らし、弓を引くバイオリンの若い女性。クラリネットを吹く男性は、背筋を伸ばし目を見開く。

演奏を始めて一分、指揮者の手が止まり、「メロディーのオーボエとクラリネットを生かして」との助言がある。繰り返し練習する団員の顔に苦痛はなく輝いている。

「弦楽器の音程がとても良くなり、弓が遅れずにそろっています」と末永さんも満足そう。曲の終わりが、金管楽器から「テンポが遅

地域に根ざした
音楽文化へ貢献



くなり、入るタイミングが分かりにくい」との質問も。和やかに教え合い練習を重ねる団員。一つの旋律が木管楽器から弦楽器に引き継がれ、金管楽器が高々と鳴り響き、打楽器も加わると美しいハーモニーとなる。

同会のコンセプトは「地域に根ざすオーケストラ」。昨年の暮れ、高津区溝口のマンションや新横浜

の病院で行ったクリスマス演奏会は、住民や患者に大好評のボランティア活動。「地域の音楽文化の発展に少しでも役立ちたい」との同グループの積極的な姿勢は、今年さらに加速することだろう。

同オーケストラの発足は五年前。「高津・第九を歌う会」の運営スタッフが「オーケストラも作ろう」と団員を募集したのがきっかけ。

藤沢和江さん(51)は「他の楽器と音がかみ合った時の感動は言葉で表せません」と感激。

トロンボーンの前岡英俊さん(34)は「吹奏楽よりオーケの方が楽しい。曲の間かせどころに一番が多いので」と冗談を交え話す。

田中けい子さん(28)は「入会四年目ですが、オケで演奏できてうれしい。みんなで音をつくるオケには夢があります」とにっこり。事務局長の南さんは「私たちの演奏が喜びを伝え、地域の方がいっそう音楽好きになることを願っています」と話す。

同事務局長宅は、高津区久本三の六の二の二〇八。☎(811)6381。

文／小誌・山本綾子
カメラ／小誌・熊野史子

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

生き生きと。

講座・講演

「社交ダンス教室◆川崎市民プラザ」5月11日～7月13日の毎週土曜、全10回。中級者9時から、初級者10時40分から。写真。受講料は1万2千円。定員は各級先着60人。申し込みは5月6日(休)までに受講料を添え同プラザへ来館。☎(888)3131。梶が谷駅下車。



①春の歌声ワンデースクール②女性硬式テニス教室◆川崎市民プラザ①は4月22日(月)10時、13時

半から。コーラスの基礎を内田圭子さんが指導。受講料千円。定員は各20人(抽選)②は5月13日～7月15日の毎週月曜、全10回。時間は初級者10時から、中級者13時から。受講料は1万2千円。定員各級60人(抽選)。申し込みは①4月17日(水)②27日(土)必着で、往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号。①に希望時間②に希望の級を記し〒213高津区新作1の19の1、同所各講座係☎(888)3131。梶が谷駅下車。

「手話入門講座◆川崎授産学園」5月24日～7月5日の毎週金曜10時から、全7回。初歩の手話を学び、聴力障害者の人から実情を聞く。無料。定員20人。申し込みは5月10日(金)までに往復はがきに同講座希望、住所、氏名、電話番号を記し〒215麻生区細山1209の同園☎(954)5011。新百合ヶ丘駅からバス。

「パッチワーク入門教室◆サンライフ川崎」5月17日～7月19日の毎週金曜9時半から、全10回。受講料は2060円、教材費は別定員先着30人。申し込みは4月14日(日)から☎(344)1777の同所。八丁囃駅下車。

②2万1千円。定員先着①30人②25人。申し込みは①4月1日②4月8日の月曜から☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園前駅下車。「春まき草花の育て方講習会◆市緑化センター」5月1日(水)13時半から。教材費500円。定員30人(抽選)。申し込みは4月24日(水)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター☎(911)2177。

「和光大学オープン・カレッジ96◆ばいでいあホール他」前期は5月7日(火)～7月19日(金)▽後期は9月17日(火)～12月13日(金)。週1回百分、各期10回。講座は▽朝鮮語・トルコ語・中国語・タイ語・アラビア語・タガログ語・シンハラ語・ヒンディー語・モンゴル語の世界▽素材と道具の歴史▽色と音の文化史▽親と子で「つくる」▽墨絵▽インド音楽▽点字・手話の世界▽後白河院▽源平合戦・今様・宝蔵絵▽西洋美術・現代美術の見方▽日本の中世社会▽源氏物語▽文学の中の女性▽現代の教育課題と児童文学、演劇▽登校拒否・高校中退・いじめ▽国際化と人権▽パソコン講座▽現代物理学▽エネルギー問題など。受講料は9千～3万円。先着受け。4月13日(土)必着で講座案内に添付の受講申込書を郵送。問い合わせは☎044(988)1433の同大学開放係。会場は鶴川駅下車。

「POP広告講座②宅地建物取引主任者資格受験準備講座◆市立労働会館」①は5月17日～6月25日の火、金曜18時15分から、全11回。見やすい文字の書き方、レイアウトを学ぶ②は5月17日～9月13日の火、金曜13時半から、全28回。受講料は①1万円、教材費

学習・文化情報

参加したい催しがある

別②2万8千円。定員は①25人②35人(抽選)。申し込みは5月12日(日)①10時②11時に受講料を添え同館☎(222)4416に直接。

「フラワーアレンジ・おしゃれな花かご◆登戸ドレスメーカー学院」4月12日(金)14時、18時半から写真。無料。花材費2千5百円。申し込みは4月10日(水)まで。午前中に☎(911)2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。



「川崎労働学校◆市中小企業・婦人会館」5月27日(7月1日の毎週月曜)5月30日、6月6、20日、7月4日の木曜(6月14、21日の金曜18時半から、全12回。労働法の基礎知識を学ぶ。講師は榎井常喜・早稲田大教授ほか。受講料は2千円。定員先着百人。申し

込みは5月13日(月)から☎(222)4416の市立労働会館。

「①音楽講座②ママ大集合ー子供用グッズ手作りに挑戦の巻③スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」①は4月4日(木)以来年3月29日(土)

の毎週木曜、コーラス▽金曜、クラシックギター▽土曜、吹奏楽。時間は18時45分から。対象は16歳以上。無料。楽器持参②は4月19日(5月31日の毎週金曜)10時から、全6回。対象は小学低学年の子供を持つ母親。材料費自己負担③は4月20日(土)18時半から。ウェイトトレーニングの基本、利用方法。対象は16歳以上の人。保険料千3百円。定員はいずれも先着①各10人②③15人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「①剣道初心者講習会②茶道初心者教室③ビジネスペン習字講座◆県立川崎青少年会館」①は5月11日(8月10日の毎週土曜18時から、全13回。小学生以上。定員先着20人。小中生は要

保護者②は5月14日(6月18日の毎週火曜19時から、全6回。16歳以上。定員先着30人③は5月14日(7月16日の毎週火曜18時半から、全10回。18歳以上。定員20人(抽選)。無料。申し込みは4月10日(水)から☎(222)5282の同館。

「社会教養特別講座ー変容する世界経済と日本◆専修大学生田校舎」5月11日(6月22日の毎週土曜13時から、全7回。世界の食糧問題▽世界の資源エネルギー問題ほか13テーマ。講師は同大学専任教員。無料。教材費千5百円(2千円。定員先着百人。同大学の正規授業の開講。申し込みは4月8日(月)19日(金)に往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区東三田2の1の1、同大学教務課経済学部☎(911)1257。向ヶ丘遊園駅からバス。

「日本画実技講座◆市民ミュージアム」5月11日(7月13日の毎週土曜13時半から、全10回。対象は初心者。受講料1万円、材料

費2千5百円。定員は30人(抽選)。申し込みは4月26日(金)必着で往復はがきに住所、氏名、電話番号、返信部分にて名を記し〒211中原区等々力1の2、同所同講座係☎(754)4500。



「ひかりの家作品展示即売会◆ひかりの家」4月27日(土)と28日(日)10時15時。民間福祉施設「ひかりの家」(古沢妙代表)の人たちの手づくりお菓子▽ケーク▽エプロン▽パッチワーク▽手さげ▽まり▽クッションなど千点を格安で。問い合わせは☎(455)0538のひかりの家。平間駅から徒歩3分。

「①ダンスパーティー②「ちびまる子ちゃん」キャラクターショー③映画劇場◆川崎市民プラザ」①は4月20日(土)18時半から。東芝ライドオンオーケストラの演奏。入場料2千円。前売り発売中②は5月3日(祝)11時と14時から。無

料。定員は当日先着各千人③は5月4日(祝)「フォレスト・ガンブ」。字幕スーパードラマ「キャスト」日本語版。両日とも10時と14時から上映。無料。定員は当日先着各5百人。問い合わせは☎(888)3131の同プラザ。梶が谷駅下車。

「①わくわく実験教室②サイエンスショー◆東芝科学館」①は4月13日(土)10時と13時から。「不思議な光レザール」をテーマに実験を交えて解説。小学生以上。各回250人②は4月27日(土)10時半から「マインスイー96度の世界」。液体窒素を使い実験▽13時から「不思議な新素材」。形状記憶などを紹介▽15時から「びっくり静電気」。雷の体験を。定員は各百人。いずれも無料。申し込みは☎(549)2200の同館②は自由参加方式。JR川崎駅からバス。

学習・文化情報

ききたい音楽がある

天文童話など。無料。小学生以下は要保護者。申し込み不要。問い合わせは☎(954)5011の同園。新百合ヶ丘駅からバス。

①歌声の広場②たかつ遊友広場◆県立高津青少年会館①は4月4日～6月27日の毎週木曜(2日を除く)19時から、全12回。みんなで楽しく歌う。青年。定員15人②は4月13、27日の土曜9時からクラフト▽イラスト▽ゲーム▽卓球。小中高生。①のみ申し込み②は参加自由。☎(844)2101の同館。

①市民天体観望会②天体写真撮影会◆市青少年科学館①は4月20、27日の土曜18時半から金星、星雲、月を観望。雨、曇りはプラネタリウムで星の話②は5月26日(日)19時半から。月(月齢9日)を撮影。小学5年以上。先着14人。フィルム、一眼レフカメラ持参。雨、曇りは中止。いずれも無料。小学生以下は保護者同伴。申し込みは①参加自由②4月28日(日)9時から☎(922)473

1の同館。

①生物教室②親子の地層探検教室◆生田緑地ほか①は5月25日(来年3月22日の毎月1回土曜(8、9、1月を除く)10時から、全8回。自然観察、工作をする。小学4～中学生で継続参加が条件。先着20人②は5月11日(来年3月8日の毎月1回土曜13時半から全11回。身近な地層や化石を採集。小学生以上で継続参加が条件。先着30人。いずれも無料。雨天決行。5月は市青少年科学館集合。申し込みは①4月18日(木)②19日(金)9時から☎(922)4731の同館。

①まんげ鏡で植物観察②葉脈標本をつくろう③野草を見る・食べる◆生田緑地ほか①は4月29日(祝)10時、市青少年科学館に集合②は5月5日(祝)13時半同館に集合。会場も同じ③は5月11日(土)9時、黒川駅改札口に集合。会場は黒川青少年野外活動センター。小学1～3年生は保護者同伴。材料費は①250円②③300円。先着①15人

②20人③25人。筆記用具持参。③はエプロンも。雨天決行。申し込みは①4月16日(火)②18日(木)③23日(火)9時から☎(922)4731の同館。

①ミニ観察会②地質③自然観察会④雑木林たんけん◆生田緑地①は4月21日(日)13時20分集合。参加自由。雨天決行②は5月12日(日)10時集合。定員先着20人。雨天中止。いずれも無料。集合場所は市青少年科学館。申し込みは①不要②4月24日(水)9時から☎(922)4731の同館。

①川崎童謡の会3周年記念②童謡フェスティバル◆中原市民館①4月10日(水)13時半から懐かしい歌、心の歌と一緒に歌う。講師は作曲家の横山太郎さん。参加費千200円。問い合わせは☎(434)6417の同会事務局。

①子供のびのび広場②子ども卓球大会◆県立川崎青少年会館①は4月13、27日の土曜10時から。卓球▽遊び▽囲碁▽将棋。小学

高校生。先着各10人②は5月5日(祝)10時から。小学生。先着20人。いずれも無料。卓球はラケット、室内靴持参。申し込みは☎(222)5282の同館。



「たくき よしみつ」カムナの調合」出版記念・KAMUNARAIブ◆喫茶シノワーズ61」4月6日(土)19時開演。たくきよしみつ、吉原寛のギターデュオ。生物兵器を題材にした伝奇ミステリー「カムナの調合」(読売新聞社)の出版を祝い、友人らが企画。たくき氏はエコロジー小説「マリアの父親」(集英社)で、小説すばる新人賞を受賞。また「雨の降る星」(集英社)では、エイズ感染者を主人公に、現代の愛と性の在り方を鋭く問い掛けた気鋭の作家。入場料全席自由2千円(1ドリンク付き)。問い合わせは☎(952)4759のシノワーズ61(新百合ヶ丘駅下車、農住ビル・アーシス・階段)。

「トラや帽子店コンサート◆エポックなかはら」4月6日(土)14時半開演。幼児に人気の「ひらけポンキッキ」の歌など愉快な曲を演奏。全席自由、大人子供同一で前売り2千300円、当日2千800円。問い合わせは☎(945)2833の有北さん。ままとんきつが主催。

「さつき寄席」林家木久蔵、立川志の輔二人会◆川崎市民プラザ」5月6日(休)18時から。前売り千700円、当日2千円。前売りは☎(888)3131の同プラザ。梶が谷駅下車。

①ペンギンサロン靴ホールシリーズ②KONCERT◆靴ホール①は4月10日(水)15時半と19時から。出演はヘラルド・ワシリーエフ(バリトン)▽アレクサンドラ・ククン(ピアノ)▽サロンオーケストラ・ジャパン。曲目はオペレッタ名曲「メリーウイドウ」▽ロシアの古きロマンス▽カルメンハイライト他②は4月29日(祝)15

15

学習・文化情報

みたい絵画がある



時開演。曲目は、愛されずにはいられない▽知りたくないの▽ラブミーテンダー他。鈴木幸治(歌、ギター)▽谷口誠(ピアノ)▽田中宏禎(フルースハープ)。全席自由3千円。申し込みは☎(812)6090の靴ホール。溝ノ口駅下車。

「麻生フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会◆麻生文化センター」4月21日(日)14時半開演。曲目はムソルグスキー「展覧会の絵」▽ブラームス「バイオリンとチェロのための二重協奏曲」▽ドボルザーク「謝肉祭」。指揮は三石精一。

バイオリン独奏は木野雅之。チェロ独奏は北本秀樹。全席自由千円。問い合わせは☎(955)1953の横須賀さん。

「響きあう言葉」室内楽と歌声のおりなすハーモニー◆「市民ミュージアム」4月21日(日)真18時半開演。曲目はウエーバー「フルートとチェロとピアノのための三重奏曲」より▽アマメーゾンググレイス▽メリウイドウより他。出演は松坂征一(バスバリトン)▽丸山哲郎(同)▽大里洋子(ソプラノ)▽高津市民合唱団▽アツレ メンシエンプロジェクト▽澤菜穂子(バイオリン)▽丸山朋文(チェロ)▽三亀亮典(フルート)▽中村真理(ピアノ)。全席自由500円。申し込みは4月16日(火)9時半から☎(754)4500の同所。

ギャラリー

「画廊ランブ屋」4月12日(金)まで「ヨーロッパポスター展」ベルエポック

より現代まで。ロートレック、シエレ、ミュシャ、デュバなど初期の貴重な作品を展示。▽4月17日(水)27日(土)「西川文字春のニット展」春のスカーフも賛助出品。☎(945)4416 稲田堤駅下車。

「ギャラリー華沙里」4月2日(火)まで「若尾和呂遺作展」▽4月4日(木)16日(火)「細谷玉江の歩み展」▽4月18日(木)30日(火)「森秀雄・荻原宗晃・五十嵐二郎グループ展」。☎(954)2333 新百合ヶ丘駅下車。

「ギャラリー幸」4月12日(金)124日(水)「ギャラリー開設記念展」6周年を記念し、同画廊なじみの作家の絵画、写真などを展示。☎(555)8181 川崎駅下車。

「中村正義の美術館」4月13日(土)6月2日(日)「谿泉(けいせん)1950年・第6回日展特選作品」からたどる中村正義の裸婦」▽4月20日(土)16時半から「ミュージアムトーク「顔」」。顔から連想する事や物など、

顔をテーマに自由に遊ぶ。有料、要予約。月・火曜日(祝日開館)入館料一般500円、学生300円、小中生200円。同館は「顔・顔の会」新規会員を募集中。会員と同伴者2人の入館無料など特典多。☎(953)4936の同館 読売ランド前駅からバス。

「会館とどろき」4月1日(月)20日(土)講座子ども絵画・書道展」☎(733)3333 武蔵小杉駅からバス。

「アートガーデンかわさき」4月14日(日)まで「親子で楽しむヘイシヤン・アート」ハイチの素朴な絵画展。カリブ海の詩情を描く底ぬけに明るいヘイシヤン・アート。佐藤文則写真展「ハイチ民主化への道」同時開催。▽4月13日(土)13時「ギャラリートーク」東京国立博物館名誉会員・長谷川栄さんによるハイチ絵画についての話。▽3月29日(金)31日(日)4月6日(土)7日(日)13時から「ワークショップハイチ人気作家による公開制作」。一般600円、高・大生400円、小・中生200円。☎(222)8821 川崎駅下車。

スポーツ

「川崎市市民ミュージアム」4月27日(土)6月16日(日)「アジア・ルネサンス」東北・東南アジアの民族造形」同地域の衣・食・住・折り・学び・芸能・遊びについての「造形」を展示▽4月28日(日)「アジア民族音楽レクチャーコンサート」▽5月3日(祝)「民族衣装ファッションショー」。観覧料一般700円、小中高大生300円▽4月27日(土)5月19日(日)特別展示室「古筆手鑑」。一年間の修復を終え展示。常設展観覧料一般300円、小中高大生500円。☎(754)4500 武蔵小杉駅からバス。

「①ウオーキング入門②健康ヨーガ③親子スポーツ教室④少年スポーツ教室」◆「幸スポーツセンター」①4月24日6月26日の水曜13時半15時。15歳以上30人

学習・文化情報

楽しいスポーツがある

② 4月25日～6月27日の木曜10～11時半。15歳以上40人。受講料①②とも4千円
 申し込みは4月17日(水)10時、同館で③ゲームや体操で体づくりとスキンシップ。5月7日～7月9日の火曜、A班11時40分、B班10時50分から各1時間全10回。3・4歳児と保護者各班20組。1組3千円。申し込みは4月23日(火)10時、同館で④体操やトランプリンで。5月9日～7月11日の木曜16～17時。市内在住の小学1～4年生30人。参加料6百円。受付4月25日(木)16時、同館で☎(555)3011川崎駅からバス。



「武道教室①剣道②少林寺拳法③なぎなた④柔道⑤合気道◆石川記念武道館」
 ①5月14日～7月18日の火・木曜17時から、全20回②5月16日～7月18日の木曜18時から、全10回||写真||③5月11日～7月13日の土曜15時から、全10回④5月16日～6月18日の火・木曜18時から、全10回⑤5月11日～6月11日の火・土曜18時から、全10回
 「パドルテニス②健康体操③少年バスケットボール④親子体づくり⑤体カアップトレーニング◆川崎市とどろきアリーナ」①5月14日～7月16日の火曜10時から。15歳以上40人。4千円②5月7日～6月4日の火曜13時半から。60歳以上40人。2千円③5月14日～7月16日の火曜18時から。小学4年以上40人。千5百円④5月9日～6月6

日の木曜で、A班9時半から、B班10時45分から。4歳児と保護者各30組。受講料千5百円⑤5月12日～7月14日の日曜11時半から。15歳以上20人。4千円。受付は4月24日(水)の①②④10時③18時⑤19時。☎(798)5000武蔵小杉駅からバス。
 「①減量大作戦②中高年スイミング入門③テニス入門④一輪車教室⑤子育てママのリフレッシュタイム◆麻生スポーツセンターほか」
 ①5月14日～7月16日の火曜19時。運動生理、食生活を学び、引き締まった体を作る。15歳以上40人。教材費とも5千円②5月9日～7月18日の木曜13時から。55歳以上30人。4千円③4月13日～6月22日の土曜14時から。15歳以上40人。教材費とも7千500円。前回受講者は除外④A4月13日～6月8日の隔週土曜10時から、B4月19日～5月24日の金曜16時半から下布田小。小学1～4年各40人。教材費とも5百円⑤5月14日～6月14日の火曜組と金

曜組、9時半から。子育て中の母親各15人。保育、お茶付き2千2百円。受付①4月23日(火)19時②同10時③4月6日(土)15時④A4月6日(土)13時半、B4月12日(金)16時40分下布田小⑤4月26日(金)10時。☎(951)1234||新百合ヶ丘駅下車。
 「シルバースポーツ教室◆川崎区宮前小」4月20日～6月29日の土曜13時から55歳以上60人。無料。会場は学校。受付4月16日(火)13時、☎(200)3255の川崎市体育館||川崎駅下車。
 ●エコーハイキングクラブ《中原区上小田中5の10の39、児島重信代表》山のいで湯、味覚、花や鳥を訪ねます。一緒に楽しみませんか。30～70歳の健康な方。入会金5千円、月会費5百円(ハイキングは実費)問い合わせは☎(766)2311の同代表宅。

会員募集

ミニニュース
 版画と音楽の「ダフニスとクロエ」に満喫だ
 2月11日、シヤガールの傑作版画展記念プロムナードコンサートが川崎市市民ミュージアムであった。出演は市内在住の若い音楽家4人。丸山朋文さんのチェロ演奏が始まると、同版画展に訪れた親子や夫婦連れが立ち止まり、会場はほぼ満席になった。
 太田恭子さんと中瀬千央さんが、ラベルの「ダフニスとクロエ」を息の合ったピアノ連弾で演奏。優しく幻想的な音色が流れる。
 展示室には、シヤガールが古代ギリシアの恋愛物語を描いた「ダフニスとクロエ」のリトグラフが飾られており、この日の観客は、ジャンルの異なった2人の巨匠の芸術に触れることができた。
 丸山さんは、ガラスノフの「吟遊詩人のうた」など5曲を演奏。楽器と体をフ

ルに生かし、美しく豊かなチェロの音が広い空間に響きわたった。

シヨパンの「序奏と華麗なるポロネーズ」では、ピアノ伴奏の菊地真美さんが舞曲のリズムを軽快に刻み、チェロとピアノと対話をしているようにメロディーを奏でる。

客席は、音楽に合わせて体が自然に揺れ、くつろいだ雰囲気。ある中年カップルは「シヤガール展に来て、こんなに素晴らしい演奏が聞けるとは思わなかった」と笑顔で話していた(Y)。

ひと足早い春の花・はな・華展

「第2回花・はな・華展」が2月下旬から約2週間、稲田堤駅近くの「画廊ランブ屋」であり、鑑賞した主婦らがひと足早い春の暖かさを楽しんだ。

展示作品はカタクリ、クローバーの野の花からパンジー、ポピー、桜などの水彩画やリトグラフ50点。93、94年に小誌表紙を飾った田村あやさんの作品もあり、

作者自身がお客様に應對、「スマイルは背が低く、他の草花の影に隠れ、つぼみのまま花が開かないこともあるんです」と野の花画家の一面をのぞかせた(Y)。

多摩高の岩本教諭 3位入賞曲に輝く 県合唱コンクール

「神奈川県合唱フェスティバル」が2月下旬、県立音楽堂であり、「神奈川県合唱作曲コンクール」(神奈川県合唱連盟主催)の表彰式と、上位入賞曲の初公開演奏があった。

第3位入賞曲には、川崎市多摩区の県立多摩高音楽教諭・岩本達明さんの「2つの新しいわらべうた」詩・小野ルミ、詩・谷川俊太郎、児童(女声)四部合唱曲Ⅱが選ばれた。第1位入選曲の該当はなかった。

岩本さんの「2つの新しいわらべうた」を初演奏したのは、平塚少年少女合唱団(指揮・志澤彰)。700人の聴衆を前に、子供たちが明るく元気に歌い終えると、来賓席で聴き入っていた

た岩本さんと子供たちに惜しめない拍手が送られた。

審査員は、合唱指揮者・関屋晋さん、作曲家・中田喜直さん、同・林光さん、同・間宮芳生さんの4人。今回のコンクールには、全国から73曲の応募があり、7作品が入選。

審査講評で、中田さんは「このコンクールは、外国の曲に匹敵する第一級の曲を期待しているので1位がなかった。しかし、本当に素晴らしい曲が誕生し、うれしく思う」と述べ、関屋さんは「かつてこのコンクールで入選した方が、現在第一線で活躍しており、素質のある人が選ばれていることは確かだ。演奏者として、新しい優れた曲が生まれたことを喜んで」と話した(Y)。

★お願い 「ステージ・アップ」は市民がつくる生涯学習情報誌です。はがきで、読者の声、ミニニュースをお寄せ下さい。簡条書きで結構です。その際、氏名、電話番号をお忘れなく。

編集後記

先日、小誌三月号の梱包作業をした後、スタツフが配送に回つた際「かわさき情報プラザ」の方か「ステージ・アップはよく読まれていますね。新春号の残部はこの一部だけです」と温かい言葉を掛けて下さつたそうだ▼同プラザには、毎月五十部を納めているが、他の物に比べ減るのが早いという▼こういう話を聞くと「頑張りななくちゃ」と元気になる▼さて、先月号の編集後記は「住専」に紙面の大半を費やし「編集後記になつてない」とのお叱りも覚悟した▼その編集後記で「かつての常識が非常識になり、常識が非常識になる世の中」と記した▼薬害エイズ(後天性免疫不全症候群)での厚生省や学識経験者の対応は「非常識の世の中」を強く感じさせた▼一九八二年、「血友病患者が非加熱血液製剤によってエイズ発症」と米国から報告があつたが、厚生省

が加熱血液製剤を認可したのは八五年▼この約三年間に、数千人の血友病患者がエイズに冒されたのだから「国の怠慢」では済まされず、厚生省を「殺人省」と叫ぶ患者の気持ちがいほど分かる▼八三年、発足の「エイズ研究班」班長(当時)の安部英・前帝京大学副学長にいたつては、研究会発足前には「危険性」を指摘、発足後は一転「非加熱製剤の必要性」を強硬主張▼安部氏が意見を変えた時期、製薬五社から同前副学長が関与する財団に四千万円もの寄付があつたことが判明、「製薬会社の利益のため主張を変えた」と疑われている▼住専、エイズの共通項は、責任の所在が不明確なことで、すべての公務員、学者が公正・公平・清潔でないことも分かつた▼全体の奉仕者ならぬ全体の悪者に、私たちはどう対処すべきなのか▼時効のない刑法でも作り真相を解明、懲役刑と高額な罰金を科することはできないものか、とつくづく思う。

